

腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言  
に資するエビデンス構築

CKD 患者の QOL の維持向上を図る体制の構築に関する研究

研究分担者 花房規男 東京女子医科大学 准教授

研究要旨

透析患者・保存期腎不全患者の QOL の向上に関するエビデンスの構築を目指す検討を行っている。昨年度得られた、QOL と関連する領域である低栄養・消耗、精神心理的徴候、社会・経済的背景を軸にして、具体的なエビデンスの収集を行っている。定性的なシステムティックレビューでは、昨年得られた結果を裏付ける内容となっている。今後、定量的な検討を行い、具体的な対策につなげていく必要がある。

A. 研究目的

昨年度行った検討で、PubMed において、CKD、腎代替療法および QOL に関連するキーワードで論文検索を行い、それらの抄録データを用いた自然言語処理を行い、QOL と関連する単語について、その類似度順に上位語を抽出した。その結果、1) 低栄養や消耗といった高齢者にみられる症状・所見、2) 抑うつ、不安といった精神心理的な徴候、3) 介助者、社会・経済という患者自身を取り巻く環境が、QOL と深い関連を持つ可能性が示唆された。今年度はそれを発展させ、透析患者・保存期腎不全患者において QOL の維持および QOL の改善をもたらすためのシステム構築を図るための、エビデンスの収集を行っている。

B. 研究方法

昨年度同様に、PubMed をベースに CKD, ESRD, 移植において QOL と関連する論文を検索した。システムティックレビューを行い、その結果について、メタ解析を行う。なお、データベースを利用した検討であり、倫理的配慮の必要はなかった。

C. 研究結果

Clinical Study, meta-analysis で制限をかけたところ、1,080 文献が検索された。タイトルおよびアブストラクトからスクリーニング・定性的なメタ解析を行っている。定性的なメタ解析では、介入としては、運動療法、身体機能、栄養、貧血、抑うつ、患者教育などが、また治療法では、腹膜透析、腎移植が QOL と関連する因子として抽出されている。

D. 考察

今回の検討からは、特に高齢者で認められる低栄養・消耗に対する介入手段としての、栄養療法・運動療法による介入、また精神心理的な抑うつの関連が示唆された。この結果は、昨年単語レベルでの検討を裏付ける内容となっている。また、適切な治療法の選択を行うことも、QOL と関連す

ることも示唆される。

今後、定性的なメタ解析から定量的なメタ解析を行い、具体的な介入点について検討・評価を行っていく。多職種による介入(栄養士、理学療法士、臨床心理士、看護師、ケアマネジャーなど)、さらには適切な患者指導・協働意思決定を通じた腎代替療法の選択と QOL 向上との関連も検討する必要がある。

E. 結論

腎疾患患者における QOL 向上のためには、多方面からの取り組みが必要であるが、特に高齢者にみられる低栄養・消耗への対策、適切な療法選択が介入手段として有用である可能性がある。

G. 研究発表

(本研究の結果は投稿準備中である)

- 1: Hasegawa T, Zhao J, Bieber B, Zee J, Pisoni RL, Robinson BM, Hanafusa N, Nangaku M: Association between Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Prescription and Erythropoiesis-Stimulating Agent Hyporesponsiveness in Hemodialysis Patients with Diabetes Mellitus. *Kidney Blood Press Res*: 1-10, 2021
- 2: Hole BD, Evans KM, Pyart R, Davids MR, Bedat CG, Hanafusa N, et al. International collaborative efforts to establish kidney health surveillance systems. *Kidney Int* 98: 812-816, 2020
- 3: Jassal SV, Larkina M, Jager KJ, Murtagh FEM, O'Hare AM, Hanafusa N, et al. International variation in dialysis discontinuation in patients with advanced kidney disease. *Cmaj* 192: E995-e1002, 2020
- 4: Usui T, Zhao J, Fuller DS, Hanafusa N, et al. Association of erythropoietin resistance and fibroblast growth factor 23 in dialysis patients: Results from the Japanese Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study. *Nephrology (Carlton)* 26: 46-53, 2021

5: Yamamoto S, Bieber BA, Komaba H, Hanafusa N, et al. Medical Director Practice of Advising Increased Dietary Protein Intake in Hemodialysis Patients With Hyperphosphatemia: Associations With Mortality in the Dialysis Outcomes and Practice

Patterns Study. J Ren Nutr: 2021

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）  
特になし。